

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 2 区分

【発行日】平成 27 年 8 月 13 日 (2015.8.13)

【公表番号】特表 2015-501552 (P2015-501552A)

【公表日】平成 27 年 1 月 15 日 (2015.1.15)

【年通号数】公開・登録公報 2015-003

【出願番号】特願 2014-540338 (P2014-540338)

【国際特許分類】

H 0 1 L 21/027 (2006.01)

G 0 3 F 7/20 (2006.01)

【 F I 】

H 0 1 L 21/30 5 1 5 D

G 0 3 F 7/20 5 2 1

【誤訳訂正書】

【提出日】平成 27 年 6 月 15 日 (2015.6.15)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 1 8

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【 0 0 1 8 】

特に、 $i = 1, 2, 3, 4, \dots, N$ であり、 $j = 1, 2, 3, 4, \dots, M$ である時に、増加傾斜 (7 2) に位置付けられた N 個の第 1 の光偏向要素 D_i と、減少傾斜に位置付けられた M 個の第 2 の光偏向要素 D_j とが、入射する投影光を投影光が瞳平面内のスポットにおいて少なくとも部分的に重なるように偏向させる場合には、次の不等式が成り立つとすることができる。

$$(S_1 + S_2) < 0.1 \cdot (|S_1| + |S_2|)$$

ここで、 $S_1 = (I_1 \cdot d_1) + (I_2 \cdot d_2) + (I_3 \cdot d_3) + \dots + (I_N \cdot d_N)$ であり、 I_i は、第 1 のビーム偏向要素 D_i 上の放射照度であり、 d_i は、第 1 のビーム偏向要素 D_i の場所における少なくとも 1 つの方向に沿った放射照度分布の方向微分であり、 $S_2 = (I_1 \cdot d_1) + (I_2 \cdot d_2) + (I_3 \cdot d_3) + \dots + (I_M \cdot d_M)$ であり、 I_j は、第 2 のビーム偏向要素 D_j 上の放射照度であり、 d_j は、第 2 のビーム偏向要素 D_j の場所における少なくとも 1 つの方向に沿った放射照度分布の方向微分である。